事業承継
特集
01

地域に根ざした100年の信頼をこれからも
人が介在することの価値を磨き、写真館の新たな役割を模索

専務取締役 **越中谷 優一**

株式会社 越中谷写真商会
〒011-0946
秋田市土崎港中央2丁目2-4
TEL 018-845-1573
FAX 018-846-6968
https://www.e410.co.jp/
HP

変化する時代の潮流を読み 写真館の生存戦略を描く

秋田市土崎で1934年に創業した株式会社越中谷写真商会。北前船の廻船問屋をルーツに持ち、地域に根ざした写真館として90年以上の歴史を誇る。4代目として家業を支える専務の越中谷優一さんは、大学で写真を専攻した後、大手化粧品メーカーの資生堂に勤務。宣伝・デザイン部に所属し、資生堂の広告ビジュアル製作に携わった経歴を持つ。

2017年に帰郷し家業に入った優一さんは、人口減少やAIの進化といった業界を取り巻く厳しい変化を冷静に見つめている。「市場が縮小する中で生き残るには、シェアを広げると共に、選ばれる理由を明確にする必要がある」と語る。2020年頃からは衣装事業にも本格参入し、全国展開している振袖・袴の専門店「一蔵&オンディーヌ」の運営を通じて振袖や袴のレンタル・販売から撮影までをトータルに提案。広告業界や大手企業での経験を活かした客観的な知見を武器に、写真館という既存の枠組みを超えた、多角的な視点による新たな価値提供の形を鋭意模索し続けている。

「人間力」を基軸としたチームで 感動の体験を創出

100年企業という大きな節目を目前に、優一さんが最も力を注いでいるのが「人づくり」だ。今春には新卒2名を含む3名のスタッフを新たに採用。専門性の高い撮影や衣装の技術・知識はもちろん、挨拶や表情、声色といった「人間の基礎部分」の教育にこそ多くの時間をかけている。「AIにはできない、人の心の機微に寄り添うサービスこそが私たちの本質」と考えている優一さん。お客様が満足し、気持ちよく対価を支払える体験を提供するには、技術以上に信頼を得られる豊かな人間力が不可欠だと語る。

また、土崎に寄港するクルーズ船の観光客をターゲットとした「あきた舞妓」とのフォトセッションなど、地域資源を活かした体験型商材の構想も描いている。

伝統ある企業としての信頼に応えつつ、時代の潮流に敏感であり続けること。単なる作業ではない、寄り道さえも楽しめるエンターテインメントとしての写真体験を目指し、優一さんの挑戦は続く。

七五三や成人式などのメモリアル写真のほか、秋田市内の公立高校をはじめとした卒業アルバムの制作を数多く手がけている。

成人式の振袖や、卒業袴など、節目となる行事で利用される和装。常時1,000点を超える商品を取りそろえている。

お客様から信頼されるためには、技術よりも人間力が大切だと語る優一さん。従業員とのミーティングにも熱が入る。